



No. sma0053

(2021.8.26)

サントリー美術館 開館60周年記念展
千四百年御聖忌記念特別展
「聖徳太子 日出づる処の天子」開催

会期：2021年11月17日（水）～2022年1月10日（月・祝）



聖徳太子童形像・六臣像 一幅 桃山時代 16世紀 大阪・四天王寺

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、2021年11月17日（水）から2022年1月10日（月・祝）まで、サントリー美術館 開館60周年記念展 千四百年御聖忌記念特別展「聖徳太子 日出づる^{ごせい き} 処^{ひい}の天子^{ところ てんし}」を開催いたします。

令和3年（2021）は聖徳太子（574～622）の1400年遠忌にあたり、太子ゆかりの寺院では、周年を迎える令和4年にかけて盛大な法会^{ほうえ}や記念事業が営まれています。

用明天皇の皇子として生まれた聖徳太子は、推古天皇の摂政^{せつしやう}を務め、十七条憲法の制定や遣隋使の派遣など国家の礎^{いしづえ}を築いたことで有名な人物です。さらに、大阪・四天王寺や奈良・法隆寺の創建に代表されるように、仏教を深く修め、その興隆に尽くしました。太子は、「日本仏教の祖」として没後まもなく信仰の対象となり、天台宗開祖・最澄^{さいちやう}や浄土真宗開祖・親鸞^{しんらん}、時宗開祖・一遍^{いっぺん}などの名だたる高僧や、貴賤を問わず多くの人々からの尊崇を集めてきました。

本展覧会では、太子信仰の中核を担ってきた四天王寺の寺宝を中心に、信仰の高まりとともに各地で造られたさまざまな太子像やゆかりの品々をご紹介します。太子の生涯をたどりながら、1400年の時を経て、今なお人々に親しまれる太子信仰の世界を紐解きます。

《 展示構成 》

第1章 聖徳太子の生涯——太子の面影を追って



重要文化財 聖徳太子絵伝 遠江法橋筆 六幅のうち(右から)第一～三幅

鎌倉時代 元亨3年(1323) 大阪・四天王寺

画像提供：奈良国立博物館

聖徳太子は推古天皇の摂政として、冠位十二階の制定や、十七条憲法の発布、「日出づる処の天子」と記した国書を携えたとされる遣隋使の派遣などを推進し、国家の礎を築いたことで知られます。一方で、仏教排斥派である物部守屋^{ものべのもりや}との戦いに勝利し、仏教を広めたことから、日本仏教の祖としても篤く信奉される歴史上類まれな人物です。

太子により創建された大阪・四天王寺において、奈良時代(8世紀)にその生涯を絵画化した「聖徳太子絵伝^{しょうとくたいしえでん}」が創始されると、以降、太子信仰の広まりとともに

バリエーションに富む太子絵伝が作られ、その遺徳が顕彰されてきました。

本章では、太子絵伝とあわせて、太子が所持したと伝わる飛鳥時代の品々や、その事績を物語る作品をご紹介します、太子の足跡をたどります。

【主な出品作品】

- ・重要文化財 聖徳太子絵伝 遠江法橋筆
六幅 鎌倉時代 元亨3年(1323) 大阪・四天王寺
- ・重要文化財 聖徳太子絵伝 一卷 鎌倉時代 元亨元年(1321) 茨城・上宮寺
- ・国宝 七星剣 一口 飛鳥時代 7世紀 大阪・四天王寺
- ・国宝 懸守 七懸のうち二懸 平安時代 12世紀 大阪・四天王寺
- ・重要文化財 細字法華経 一卷 平安時代 11世紀 大阪・四天王寺

第2章 聖徳太子信仰の広がり——宗派を超えて崇敬される太子



聖徳太子二歳像(南無仏太子像) 一軀

鎌倉時代 13~14世紀 京都・白毫寺

画像提供：神奈川県立金沢文庫 撮影：野久保昌良



重要文化財 聖徳太子童形立像(孝養像) 一軀

鎌倉時代 14世紀 茨城・善重寺

画像提供：神奈川県立金沢文庫 撮影：井上久美子

聖徳太子は日本に仏教を広めた人物として、没後まもなく信仰の対象となります。さらに太子は、中国天台の高僧・南岳大師慧思なんがくだいしえしの生まれ変わり、あるいは観音の化身とも見なされ、最澄や親鸞、一遍といった各宗派の祖師をはじめ、身分・男女を問わず多くの人々から崇敬されます。なかでも親鸞は、太子を「和国の教主わこく きょうしゅ」すなわち日本の釈迦と讃仰さんぎょうしました。

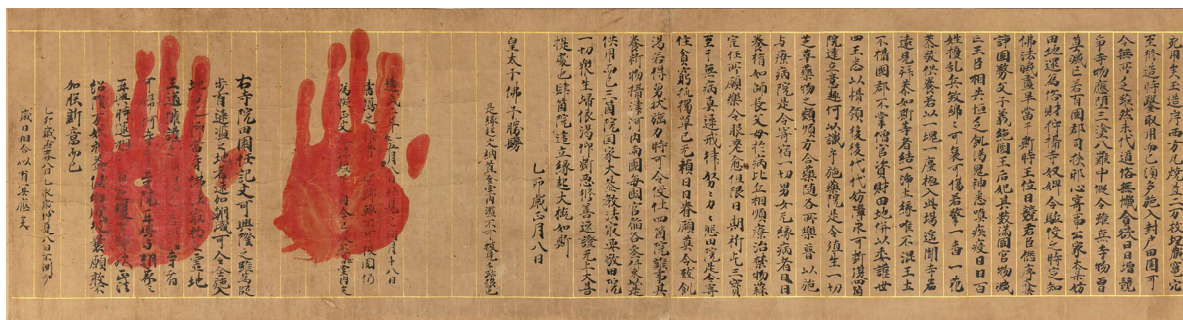
こうした太子信仰を背景に、幼い太子の二歳像なんむぶつたいしぞう(南無仏太子像)や父・用明天皇の病氣平癒を祈る童子像きょうようぞう(孝養像)、そして成人後この国の政治と仏教の興隆に尽力する姿(摂政像・講讚像こうさんぞう)など、さまざまな絵画・彫刻作品が生み出されていきます。

本章では、多種多様な太子像の全貌と、諸宗派における太子信仰の広がりを示す作品をご紹介します。

【主な出品作品】

- ・聖徳太子二歳像（南無仏太子像） 一軀
鎌倉時代 13～14世紀 京都・白毫寺
- ・聖徳太子童形立像（植髮太子） 一軀
鎌倉時代 13～14世紀 兵庫・鶴林寺
- ・重要文化財 聖徳太子童形立像（孝養像） 一軀
鎌倉時代 14世紀 茨城・善重寺
- ・聖徳太子童形像・六臣像 一幅 桃山時代 16世紀 大阪・四天王寺
- ・重要文化財 親鸞聖人絵伝 六幅 南北朝時代 14世紀 京都・西本願寺
- ・国宝 一遍聖絵 円伊筆 卷第八 一卷
鎌倉時代 正安元年（1299） 神奈川・清浄光寺（遊行寺）

第3章 大阪・四天王寺の1400年——太子が建立した大寺のあゆみ



国宝 四天王寺縁起（後醍醐天皇宸翰本） 一卷（部分） 南北朝時代 建武2年（1335）
大阪・四天王寺

大阪・四天王寺は、推古天皇元年（593）に聖徳太子が建立した日本最古の^{かんじ}官寺です。仏教排斥派・物部守屋との戦いの際、太子自ら四天王像を彫り、もし戦勝の祈りが叶えば四天王のために寺を建立すると誓いを立てたことに始まります。

寛弘4年（1007）に、太子真筆と伝える「四天王寺縁起（根本本）」が寺内で発見されると、太子信仰を核に、観音信仰や浄土信仰そして未来記など、さまざまな信仰を包摂して繁栄する大きな契機となり、「太子の霊場」としての地位をより強固なものとししました。

四天王寺は、長い歴史のなかで戦禍や災害により何度も伽藍が失われましたが、人々の絶えることない太子への篤い信仰に支えられ、その都度再興を果たしています。

本章では、四天王寺の1400年をその名宝とともにご紹介します。

【主な出品作品】

- ・国宝 四天王寺縁起（根本本） 一卷 平安時代 11世紀 大阪・四天王寺
- ・国宝 四天王寺縁起（後醍醐天皇宸翰本） 一卷
南北朝時代 建武2年（1335） 大阪・四天王寺
- ・重要文化財 救世観音半跏像 一軀
鎌倉時代 寛元4年（1246） 京都・三千院
- ・国宝 法然上人絵伝 卷第十六 一卷 鎌倉時代 14世紀 京都・知恩院
- ・国宝 扇面法華経冊子 卷第一・七 二帖 平安時代 12世紀 大阪・四天王寺

第4章 近代以降の聖徳太子のイメージ…そして未来へ——つながる祈り



旧最高裁判所大法廷壁画 小下絵のうち 聖徳太子憲法宣布
堂本印象筆 一紙 昭和26年（1951）
京都府立堂本印象美術館



聖徳太子童形半跏像 松久宗琳佛所作 一軀
令和3年（2021）
大阪・四天王寺

日本仏教の祖として崇められてきた聖徳太子ですが、明治時代になると国家の礎を築いた政治家としての側面がクローズアップされます。昭和に入り、偉大な功績を残し国民から敬愛される人物としてお札の顔に採用されると、以来太子は、7種もの紙幣に最多登場しています。笏を執るその姿は、現代における聖徳太子のイメージを決定づけたといえるでしょう。さらに、太子を主人公とするマンガ・山岸涼子作「日出処の天子」も人気を博し、より身近な存在となりました。

その一方、令和3年（2021）、四天王寺では100年に一度の御聖忌^{（注）}に向け、新たに「聖徳太子童形半跏像」を造立しました。礼拝の対象としての太子の造形は今も生み出され続け、太子への祈りは、過去から現在、そして未来へと継承されていきます。

本章では、近代以降における太子のイメージをたどるとともに、脈々と歴史を重ねる四天王寺^{しやうりやうえ}聖^{せい}靈^{りやう}会^えの舞樂所用具など、現在の太子信仰ゆかりの作品をご紹介します。

(注) 大阪・四天王寺では「遠忌」を「聖忌」と称します。

【主な出品作品】

- ・旧 最高裁判所大法廷壁画^{きゅうさいこうさいばんしやうだいほうていへきが} 小下絵^{こしたえ} 堂本印象筆 三紙
昭和26年(1951) 京都府立堂本印象美術館
- ・日本銀行券^{にっぽんぎんこうけん} 七枚 昭和時代 20世紀 東京・国立印刷局 お札と切手の博物館
- ・日出処の天子原画 山岸凉子作 カラー六紙 モノクロ十六紙
昭和55～59年(1980～84)
- ・聖徳太子童形半跏像 松久宗琳佛所作 一軀
令和3年(2021) 大阪・四天王寺
- ・重要文化財^{してんのうじぶがくしやうぐ} 四天王寺舞樂所用具^{こちやう} 胡蝶^{こちょう}のうち羽根^{はね} 四枚のうち一枚
桃山～江戸時代 16～17世紀 大阪・四天王寺

【本展における展覧会関連プログラム】

◎講演会「四天王寺—聖徳太子信仰の殿堂—」

講師：一本崇之氏（四天王寺勸学部文化財係主任・学芸員）

日時：11月28日（日）14時～15時30分

会場：6階ホール

定員：50名（事前申込制）

料金：700円（別途要入館料）

応募締切：11月4日（木）

※当館ウェブサイトよりお申込みください。応募者多数の場合は抽選、結果は当選者のみにお知らせします。

◎学芸員による展示レクチャー

展覧会担当学芸員が詳しく展示作品を解説（スライド使用）

12月5日（日）、12月26日（日）

各日11時～、14時～（各回約40分）／参加無料（別途要入館料）／事前申込優先

※当館ウェブサイトよりお申込みください。先着順。空席がある場合に限り、当日参加可能です。

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。その他のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

サントリー美術館 開館60周年記念展
千四百年御聖忌記念特別展
「聖徳太子 日出づる処の天子」開催

- ▼会 期：2021年11月17日（水）～2022年1月10日（月・祝）
※作品保護のため、会期中展示替を行います。
※会期は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。
- ▼主催：サントリー美術館、和宗総本山四天王寺、日本経済新聞社
- ▼協賛：金剛組、サントリーホールディングス、損害保険ジャパン、高松建設、NISHA、三井不動産（五十音順）
- ▼会場：サントリー美術館
東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階
〈最寄り駅〉 都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結
東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結
東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分
- ▼展覧会特設サイト：<https://taishi1400.exhn.jp/>

【基本情報】

- ▼開館時間：10時～18時
※金・土および11月22日（月）、1月9日（日）は20時まで開館
※いずれも入館は閉館の30分前まで
※開館時間は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。
- ▼休館日：火曜日（11月23日、1月4日は18時まで開館）、
年末年始は12月28日（火）～1月1日（土・祝）
- ▼入館料：
・当日券：一般1,500円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料
・前売：一般1,300円、大学・高校生800円
※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱
※前売券の販売は展覧会開幕前日まで
※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ
- ▼割引：
・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引
※割引適用は一種類まで（他の割引との併用不可）

▼呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日 時：11月18日（木）、12月2日（木）・16日（木）・23日（木）、
1月6日（木）

12時、13時、14時、15時にお点前を実施
（お点前の時間以外は入室不可）

会 場：6階茶室「玄鳥庵」 定員：各回12名／1日48名

呈茶券：1,000円（別途要入館料）

※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売（予約不可、先着順で販売終了、お一人様
2枚まで）

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

▼一般お問い合わせ：03-3479-8600

▼美術館ウェブサイト：<https://www.suntory.co.jp/sma/>

▽プレスからのお問い合わせ：〔学芸〕上野〔広報〕光田

http://www.suntory.co.jp/sma/info_press/

▽プレス用画像のお申込み：

「千四百年御聖忌記念特別展 聖徳太子 日出づる処の天子」PR事務局（TMオフィス内）

TEL : 06-6231-4426

E-mail : taishi1400@tm-office.co.jp

以 上